

「悪魔のささやき」 連々

▽悪魔…ヒロインにとりつく上級悪魔。いつもは彼女にしか姿は見えず、純粋な心を持つヒロインが墮落してしまうのを待っている。(私、敬語、上から目線)

●シーン1 ヒロインの社内にて

おや？あの男性、また貴方をお誘いしたんです？

(飛び上がるヒロイン)

…ハハッ、貴方の側で茶々入れるようになって結構経つでしょう。そろそろ慣れたらどうなんです？

突然で。

(不意にヒロインの耳元へ)

私はね、ずっと見ていますから…貴方のこと。なんて、それはさておき。

好意を寄せられて、はつきり返事をしないのは感心しませんね。面倒なことに発展しますよ。今の関係をどうこうしたがつている彼らのためにもはつきり言うべきですよ。

ほら、言ってしまうえば良いではありませんか。…嫌い、だと。

ん？彼らって、あの男性に目を向けられなくて苛立ちを見せている貴方の女上司。いつからです？貴方を可愛いと言わなくなったのは。

そんな感情がないまぜになった顔しないでください……かわいらしい。

ああ、仕事中。確かに、いつまでも独り言を呟くだけの貴方は給料泥棒ですね！

これにて失礼。

●シーン2 ベッドに入るも眠れないヒロイン

もうこんな時間ですよ。いいんです？眠らなくて。

私のせい？いやいや、そうでしょうか。いち悪魔の忠告、真に受けるか聞き流すかですけど勝手に悩んでるのは貴方。そして、悪いのは貴方じゃありませんか？

きつと今夜も、あの男性は貴方のことを考えていますよ。時間を費やすほどに想いは強くなって、やがて憎しみに変わる。報われない事実に気付いて、自分を弄ばれた心地になった彼は手が出てしまうかも。貴方押しに弱いでしょう。そういう顔してますからね、強引に事を運べばどうにかなるかも、なんて考えてるかも。ああ、それが貴方の狙いです？

襲われない、とか思ってた。フハッ、そんな必死に否定して。

もうどんどん黒くなってますねえ…貴方の魂。

純粋な人ほど、悪意に苦しみますよ。早くどうでも良くなってしまいなさいな。私がこんな場所から連れ出して差し上げます。

おや…いつもは私なんか目もくれず寝入ってしまうのに、結構その気なんです？

誰かの手垢がつく前に、とは思っているんですけどね。

(ヒロインに近づき、頭を撫で始める。語りはゆっくり)

なんだかんだ文句を言いながらも、私のことを気に入ってくださったのですか？
この世と私を天秤にかけて、どっちを選ぶのか…でも…まだ。まだです。

(ヒロインに聞こえないように小声で)

早く私を、好きになりなさい。

フツツ…なんでもありません。ほら、貴方が眠るまでここにいますから。
面倒なこと嫌なこと全て、忘れて。週末は私と水族館に行くんでしょう？
ランチは何が良いか考えておいて。

今日一番の笑顔が今だなんて、可哀想な人(笑)

ああほら冗談ですから。もう、ゆっくりおやすみ。

(額に口づけ)

……………以上 950 字

© 連々 <https://www.renrenrenren.com>

二次配布と自作発言は禁止しています。フリー台本であることを記載してください。